

コンテナ苗による造林コストの縮減に向けた取組

地域課題の解決に向けた取組
網走南部森林管理署

網走東部流域の民有林

においては、市町村森林整備計画実行管理推進チーム等により、伐採後の造林未済地の解消に向けた対策への取組が行われています。しかしながら、植栽等による伐採跡地の更新が行われていない箇所が散見され、造林未済地が減少していない現状にあります。

このため、造林の作業工程や育林コストの縮減により、森林所有者の造林意欲の向上を図り、再造林を推進することが地域全体の課題となっています。

コンテナ苗による造林コスト縮減に向けた取組

苗木の植付けや育林における初期段階のコストを

縮減するため、コンテナ苗が注目されています。



コンテナ苗(トドマツ)

コンテナ苗のメリットとしては、①これまでの苗木と異なり根が培土に覆われているため、植栽適期の拡大が可能、②パレットに乗せたまま運搬が可能、③形状が均一で活着がよい、④機械化された工場生産による育苗が可能、などがあります。これらにより、作業工程の縮減やそれに伴うコストの縮減等が期待されています。

コンテナ苗の普及推進

コンテナ苗の植栽には専用の器具があります。多くの器具が外国製で、筐の根や石礫の有無など作業条件により使用できないものもあり、重量も大きいことから、当署では地域の作業条件に合ったコンテナ苗植付器具の改良や作業工程改善に向けて取り組んできました。



改良した植付器具

関係機関等と連携して、どのような場所でも使用でき、根鉢の形状に合わせた植穴が掘れるように改良を行った結果、従来のものよりも、軽量かつ安価な植付器具を製作しました。植付試験を行った結果、作業時間を

大幅に短縮することができたところでした。こうした取組については「北の国・森林づくり技術交流発表会」や「北海道森づくり研究成果発表会」などで報告を行いました。

このほか、民有林でのコンテナ苗植栽時に改良した植付器具等の説明や技術指導・支援を行い地域への普及に取り組んでいます。



民有林での植栽

また、現状ではコンテナ苗の生産コストは今までの苗木生産と比較して高いことから、コンテナ苗の生産業者と意見交換を行い、生産性分析等によりボトルネックの解消に向けて情報共有を図っています。

林業全体の低コスト化に向けて

当署においては、伐採・搬出から植栽までを一連で行う一貫作業システムの実施を通じて、コンテナ苗等の取組による造林の低コスト化、伐採搬出の生産性向上に取り組んでいるところであり引き続き、地域の現状にあった林業全体の低コスト化に向けて関係機関と連携を図りながら地域の課題解決に向けて取組を推進していく考えです。